

## ま え が き

この報告書は、信州大学環境問題研究教育懇談会・地域開発と環境問題研究班が、1988年度特定研究費による研究活動の一環として、本年2月26日に松本市信州大学旭会館で開催した「ゴルフ場等の開発と地域・環境問題シンポジウム」における講演を、上記懇談会の会報である“環境科学年報 — 信州大学, 第11号”の別冊としてまとめたものである。

現在、長野県下のゴルフ場は、宮下氏の報告（講演1）にみられるように、既設50カ所、造成中11カ所、計画中（環境アセスメント実施中）20カ所、合計81カ所に達しており、なおそのほか、構想中のものが20あるいは30カ所を越えるといわれている。

最近のわが国におけるゴルフ場の開発は、他の府県においても異常な速度で進められており、周辺の自然環境や水質への影響をめぐって、各地で大きな社会問題となっている。

長野県下における上のような状況をみると、信州のすぐれた自然環境や生活環境、ならびに地域社会の将来への影響を考えた場合、賛成しかねるような開発計画もみられるのが、否めない実情である。しかし一方では、各地の自治体が、いわゆる“地域活性化”の一手段として、ゴルフ場の新規開発に強い期待を寄せているのもまた事実である。

このような情勢を踏まえて、上記のシンポジウムは、全体として、ゴルフ場開発の推進あるいは反対のいずれにも偏ることなく、現在のわが国の社会情勢、および長野県という地域環境の下におけるゴルフ場の開発が、その地域にもたらすであろう利益と損失を、その着想の出発点において、客観的かつ長期的視点から判断するためのよりどころを、われわれ自身が模索するとともに、その検討の課程に、このような問題に直面しておられる各地の自治体や住民の皆さんにも加わって頂き、持てる情報の相互交流をはかるために企てられたものである。

このシンポジウムには、信州大学のメンバーの他に、長野県環境自然保護課長宮下隆氏、および長野県地方自治研究センター事務局長和田蔵次氏の両氏が、快く話題提供者として加わって下さったため、内容をより一層幅広くし、かつ充実させることができた。主催者として深く感謝の意を表する次第である。

シンポジウムの当日には、予想を越える多数の参加者があり、会場に入れなかったり、講演集が不足したりして、大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びしなければならない。

時間の不足から十分な討論がおこなえなかったとはいえ、シンポジウムの会場は真摯な空気に終始し、当研究班の本年度の研究・検討課題の一端は達成されたものと考えている。しかしながら、ゴルフ場等地域開発に伴って発生する諸問題には、その地域の環境問題として重要なものが多く、またきわめて複雑多岐にわたっており、今後も引き続いて、広い分野にわたる研究班メンバーの協力による、倦むことのない研究活動が期待されている。

シンポジウムの報告集をまとめるに当たって、当研究班の活動に対する一層のご指導とご協力をお願いする次第である。

1989年3月26日

信州大学環境問題研究教育懇談会  
開発と地域問題研究班

世話人 桜井善雄